



管理ツール 操作マニュアル

S00-00 初期設定編

株式会社 エヌジェーケー

- ・このソフトウェアの著作権は、株式会社エヌジェーケーにあります。
- ・このソフトウェアおよびマニュアルの一部または全部を無断で使用、複製することは法律で禁止されております。
- ・このソフトウェアおよびマニュアルは、本製品の使用許諾契約書のもとでのみ使用することができます。
- ・このソフトウェアおよびマニュアルを運用した結果の影響については、一切責任を負いかねますのでご了承ください。
- ・このソフトウェアの仕様およびマニュアルに記載されている事項は、将来予告なしに変更することがあります。
- ・このマニュアルで使用している画像には、開発中のものも含まれます。実際の製品と異なる場合がございますことをご了承ください。

DataNature および DataNature Smart は、株式会社エヌジェーケーの登録商標です。
その他の商品名は、一般に各社の商標または登録商標です。

CONTENTS

マニュアルの表記	S00-00_0
1.DataNature Smart 全体概要図	S00-00_1
2.DataNature Smart サーバーの初期設定	S00-00_2
2-1 作業の流れ	S00-00_2
2-2 DN 管理ツールの起動	S00-00_3
◆起動	S00-00_3
◆終了	S00-00_3
2-3 サーバー環境の設定	S00-00_4
◆環境設定の起動/終了	S00-00_4
◆ライセンスの登録	S00-00_4
◆A.サービス	S00-00_5
◆C.既定のフォルダー設定	S00-00_5
◆D.ログファイルのサイズ	S00-00_6
2-4 オプションの設定	S00-00_6
◆オプション設定の起動/終了	S00-00_6
◆認証方法	S00-00_7
◆アカウント	S00-00_8
3.DataNature Smart のセキュリティ機能	S00-00_9
3-1 機能の概要	S00-00_9
◆ユーザーとグループ	S00-00_10
◆ユーザーと機能ボタン	S00-00_10
◆DataNature Smart フォルダー	S00-00_11
3-2 ユーザー登録	S00-00_12
3-3 グループ登録	S00-00_14
3-4 機能ボタン登録	S00-00_15
3-5 製品インストール時のセキュリティ情報	S00-00_16

マニュアルの表記

◆ 呼称について

本マニュアルでは以下の呼称を使用しています。

DataNature Smart 管理ツール :DN 管理ツール

DataNature Smart クライアント :DN クライアント

◆ 画面に表示されるコマンド名などの文字

コマンド名やダイアログボックス名など、画面上の固有の文字は [] で囲んで表記します。なお、ユーザーによって異なるデータボタンは < > で囲んで表記します。

【例】

[編集]コマンド、[検索]ダイアログボックス

<大阪営業所>データボタン

◆ マニュアルで使用しているアイコン



“注意”を意味します。

知っておくべき重要な事柄や行なってはならない操作など、注意すべきことについて記載されています。



“ポイント”を意味します。

操作や内容のポイントとなる事柄について記載されています。



“参考”を意味します。

知っておくと便利な操作や内容などのノウハウについて記載されています。



“参照”を意味します。

操作や内容に関連するマニュアルの参照ページについて記載されています。

◆ マニュアルで使用している画像について

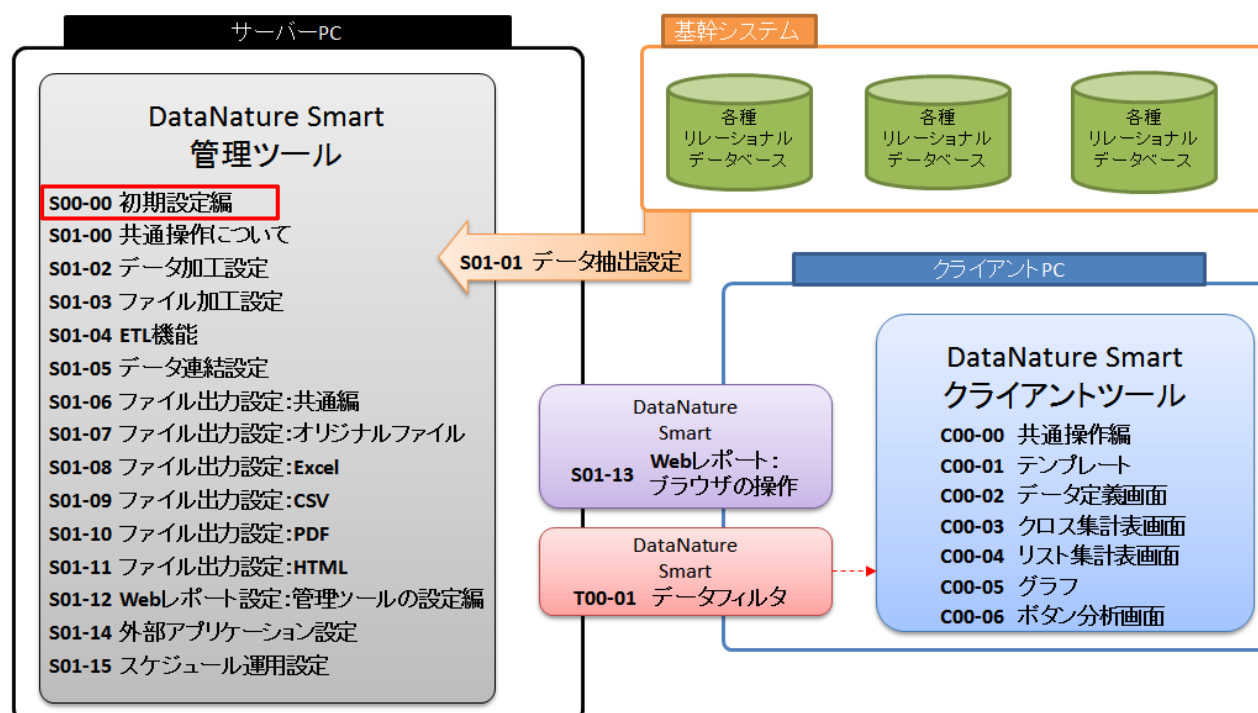
マニュアルで使用している画像には、開発中のものも含まれます。実際の製品と異なる場合がございますことをご了承ください。

◆ 機能について

導入された製品構成によって、利用できない機能や制限があります。

1. DataNature Smart 全体概要図

本マニュアルでは、S00-00 初期設定編について記載しています。



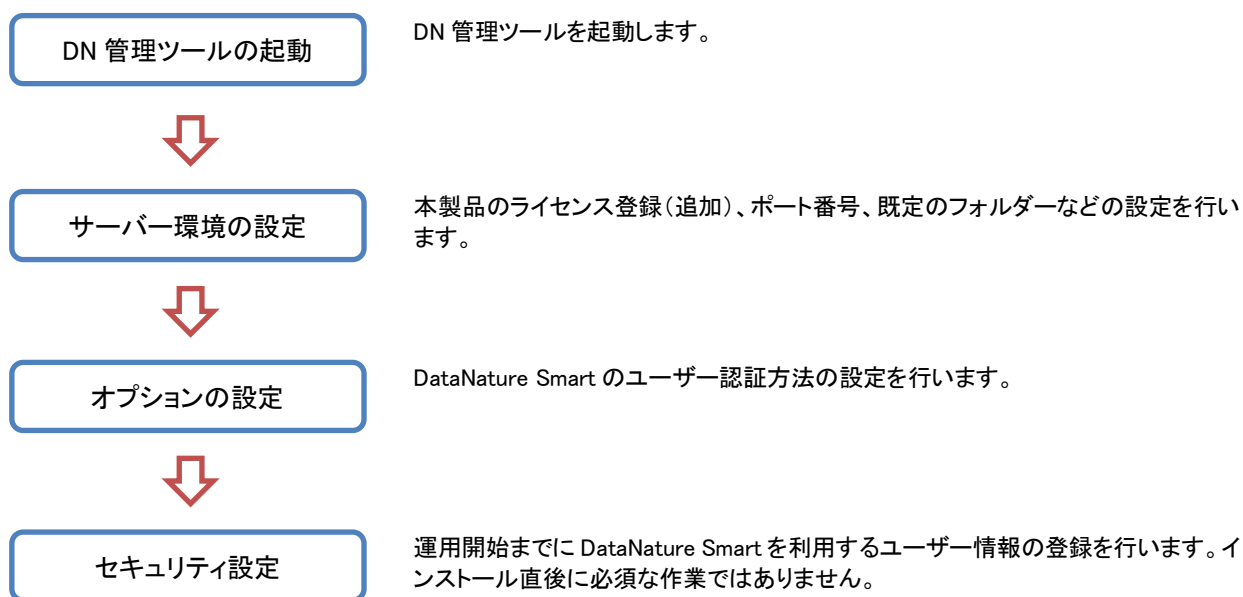
2. DataNature Smart サーバーの初期設定

DataNature Smart サーバーのインストール後に必要な設定について説明します。

設定作業は、DataNature Smart 管理ツール（以降は DN 管理ツールと略します）を使用します。

2-1 作業の流れ

以下の手順で設定作業を行います。



DN 管理ツールの操作をするときには、Administrator または Administrator 権限を持ったユーザーで行ってください。

2-2 DN 管理ツールの起動

◆ 起動

- 1 [スタート]ボタンをクリックし、[すべてのプログラム]-[DataNature Smart]-[管理ツール]をクリックします。



OS のバージョンが Windows Server 2008 以降の場合は管理者としての実行が必要です。[すべてのプログラム]-[DataNature Smart]-[管理ツール]、またはアイコンを右クリックして表示されるメニューより[管理者として実行]をクリックして起動してください。ユーザーアカウント制御(UAC)から警告メッセージが表示される場合は、[はい]ボタンをクリックします。

▼[DataNature Smart ログイン]ダイアログボックスが表示されます。



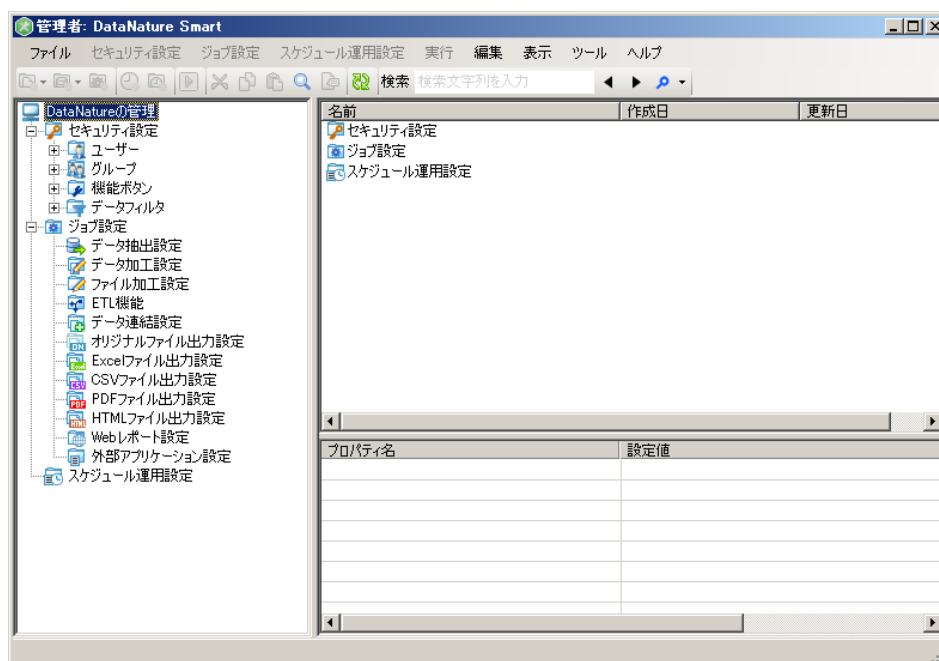
- 2 DataNature Smart の管理者ユーザーのユーザー名とパスワードを入力して、[OK]ボタンをクリックします。

ユーザー admin
パスワード 空白



入力するアカウントはインストール時に作成した管理者、または、左記のビルトインアカウントを使用してください。

▼DN 管理ツール画面が表示されます。



◆ 終了

メニューバー[ファイル]-[終了]を選択するか、タイトルバーの[×]ボタンで終了します。

2-3 サーバー環境の設定

ライセンスの登録(追加)、DataNature Smart のサーバー機能が動作する環境の設定を [環境設定] ダイアログボックスから行います。DataNature Smart が自動的に設定した値とインストール時に指定した値が設定されています。表示された内容を確認して問題が無ければ設定作業は不要です。

◆ 環境設定の起動／終了

- 1 DN 管理ツールのメニューバー[ツール]-[環境設定]をクリックします。

▼[環境設定] ダイアログボックスが表示されます。

- 2 [環境設定]の要素には以下の項目があります。田ボタンで展開し、確認してください。

項番	名称	説明
A	サービス	DataNature Smart が使用するポート番号を設定します。
B	ライセンス	DataNature Smart に登録済みのライセンス情報を表示します。
C	既定のフォルダー	DataNature Smart が使用するフォルダーを設定します。
D	ログファイルサイズ	DataNature Smart が出力するログファイルのサイズを指定します。

- 3 変更した内容を保存する場合は[OK]ボタンをクリックします。保存しない場合は[キャンセル]をクリックします。

◆ ライセンスの登録

別売の製品オプションを追加したり、トライアル版から製品版へ変更する場合などに、追加ライセンスキーを登録します。登録したライセンスの内容は[B.ライセンス]の欄に表示されます。

- 1 ライセンスキーを入力して[適用]ボタンをクリックします。

- ② 確認メッセージが表示されますので、[はい]ボタンをクリックします。
- ③ 登録完了のメッセージが表示されますので[OK]ボタンをクリックします。
- ④ 複数のオプションを登録する場合は①～③の手順を繰り返してください。



トライアル版から製品版へ変更する場合には、シリアル番号の変更も合わせて行ってください。

◆ A.サービス

DataNature Smart で使用するポート番号を設定します。

初期値は以下の値が設定されています。

名称	初期値	説明
ポート番号(接続用)	4500	クライアントツール接続用
ポート番号(ログ出力用)	4501	ログ出力用

- ① 変更を行うポート番号の[設定値]をクリックします。

A.サービス	
ポート番号(接続用)	4500
ポート番号(ログ出力用)	4501
B.ライセンス	
製品の種類	DataNature Smart
ライセンスの種類	クライアントライセンス
版の種類	製品版

- ② 新しいポート番号に変更します。



ご利用の環境によっては、変更したポート番号に対する Windows ファイアウォールの設定が必要な場合があります。

◆ C.既定のフォルダー設定

DataNature Smartでファイルを開く/保存する場合の既定値(デフォルト)のフォルダーのパスを指定します。

- ① 変更を行うファイルの[設定値]をクリックします。

A.サービス	
B.ライセンス	
C.既定のフォルダー設定	
データファイル	C:\NJK\DataNature Smart v2\Server\Data\
テンプレートファイル	C:\NJK\DataNature Smart v2\Server\Template\
オリジナルファイル	C:\NJK\DataNature Smart v2\Server\Xds\
Excelファイル	C:\NJK\DataNature Smart v2\Server\Excel\
PDFファイル	C:\NJK\DataNature Smart v2\Server\PDF\
抽出条件ファイル	C:\NJK\DataNature Smart v2\Server\Eco\
加工条件ファイル	C:\NJK\DataNature Smart v2\Server\Cle\
Webファイル	C:\NJK\DataNature Smart v2\Server\Web\
Webレポートファイル	C:\NJK\DataNature Smart v2\Server\WebReport\
ログファイル	C:\NJK\DataNature Smart v2\Server\Log\
テンポラリファイル	C:\NJK\DataNature Smart v2\Server\Temp\
D.ログファイルサイズ(MB)	

- ② 右端に表示される[参照]ボタンをクリックします。
- ③ 表示された[フォルダーの参照]ダイアログボックスからフォルダーを選択して、[OK]ボタンをクリックします。新たにフォルダーを作成する場合は[新しいフォルダーの作成]ボタンをクリックしてください。

◆ D.ログファイルのサイズ

DN 管理ツールが出力するログファイルの出力サイズの上限值を指定します。単位はメガバイトです。

- ① 変更を行うログファイルの[設定値]をクリックします。



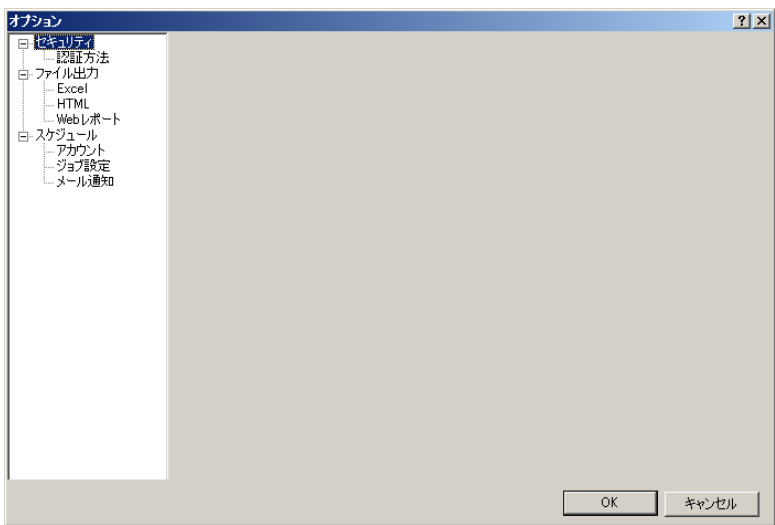
- ② 新しいサイズに変更します。

2-4 オプションの設定

DN 管理ツールのオプションを設定します。
初期設定として[認証方法]と[アカウント]の設定を行います。

◆ オプション設定の起動／終了

- ① DN 管理ツールのメニューバー[ツール]-[オプション]をクリックします。
▼[オプション] ダイアログボックスが表示されます。



- ② オプションの要素には以下の項目があります。田ボタンで展開し、確認してください。

要素	項目	説明
セキュリティ	認証方法	ログイン時の認証方法を指定します。
ファイル出力	Excel	「Excel ファイル出力」で出力する Excel ファイルのバージョンを指定します。
	HTML	「HTML ファイル出力」で出力するグラフのサイズを指定します。
	Web レポート	Web レポートのルートの名称や、Web レポートに出力するコンテンツのサイズを指定します。
スケジュール	アカウント	Windows のタスクスケジューラーへ登録する時に使用するユーザーアカウントを登録します。
	ジョブ設定	ジョブの実行完了後に次のジョブを実行するまでの時間間隔を指定します。
	メール通知	ジョブの終了時に送信するメールの設定やアラート通知の設定を行います。

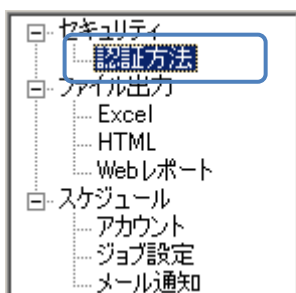
- ③ 変更した内容を保存する場合は[OK]ボタンをクリックします。保存しない場合は[キャンセル]をクリックします。

◆ 認証方法

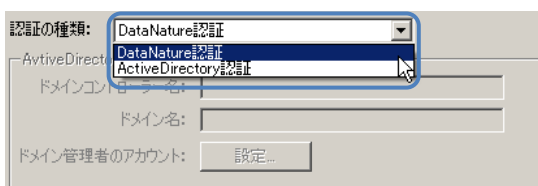
DataNature Smart にログインする際のユーザー認証方法を設定します。
認証方法には次の2種類があります。

認証の種類	説明
DataNature 認証	DataNature に登録されたユーザー情報で認証を行います。
ActiveDirectory 認証	Windows の ActiveDirectory で管理されているユーザー情報で認証を行います。

- ① ツリービュー[セキュリティ]-[認証方法]をクリックします。

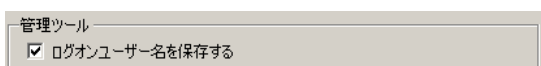


- ② [認証の種類]ボタンをクリックします。
認証の種類が表示されますので、該当の認証方法を選択します。



[ActiveDirectory 認証]を指定した場合、「ドメインコントローラー名」「ドメイン名」「ドメイン管理者のアカウント」を設定してください。

- ③ DN 管理ツールの[ログイン]画面にユーザー名を自動表示させる場合は、「管理ツール」領域の[ログオンユーザー名を保存する]をチェックオンします。



- ④ [OK]ボタンをクリックします。

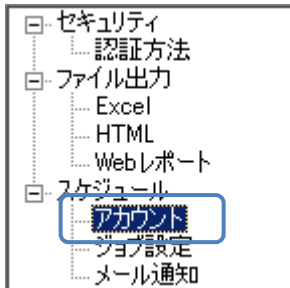


[ActiveDirectory 認証]を選択した場合、Windows のディレクトリサービスへのアクセス情報の設定が必要です。設定内容についてはシステム管理者またはネットワーク管理者にお尋ねください。

◆ アカウント

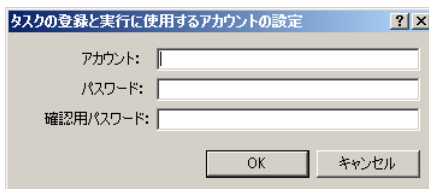
Windows のタスクスケジューラーへの登録およびタスクの実行に使用するユーザーアカウント情報を登録します。
Administrator または Administrator 権限を持ったユーザーアカウントを登録してください。

- 1 ツリービュー[スケジュール]-[アカウント]をクリックします。



- 2 [タスク登録に使用するアカウントを設定する]にチェックオンし、[設定]ボタンをクリックします。

▼[タスクの登録と実行に使用するアカウントの設定]ダイアログが表示されます。



- 3 アカウントとパスワードと確認用パスワードを入力します。

- 4 [OK]ボタンをクリックします。



誤ったパスワードを設定した場合、登録したアカウントが Windows のアカウントポリシーによってアカウントロックされてしまう場合があります。



認証方法を「ActiveDirectory 認証」に設定している場合、ActiveDirectory サーバーとの通信障害などで認証が行えない時には、スケジュールの実行に失敗します。ローカル・コンピューター・アカウントの登録を奨励します。

3. DataNature Smart のセキュリティ機能

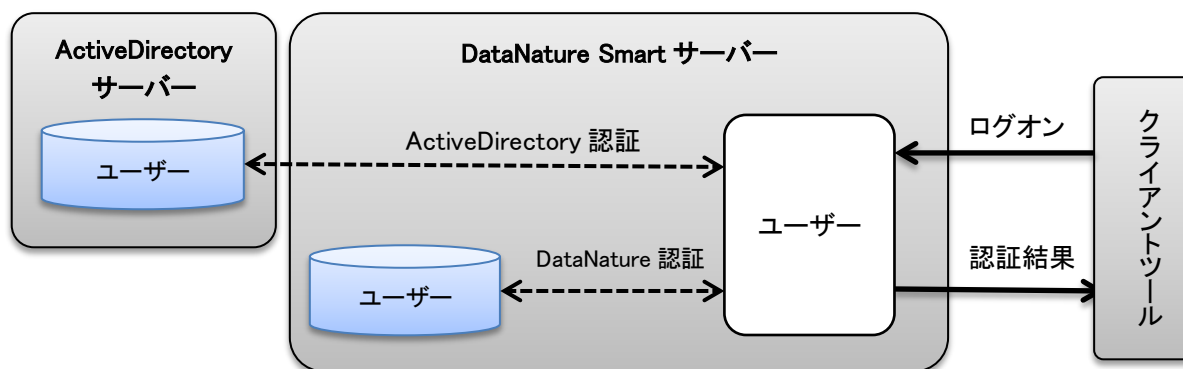
3-1 機能の概要

DataNature Smart には次のセキュリティ機能があります。

セキュリティ機能の種類	説明
ユーザーアカウントの管理	DataNature Smart を利用する際のログオンユーザーの認証設定を行います。
グループの管理	DataNature Smart の利用者の権限を付与します。
機能ボタン制御	利用できるクライアントツールの機能をユーザーごとに制限します。
DataNature Smart フォルダー	秘匿性の高い DataNature Smart 専用の共有フォルダーを提供します。

◆ ユーザー認証

DN 管理ツールまたは DN クライアントツールへのログイン時に入力されたユーザー名 (ID) とパスワードにより、利用可否の認証を行います。認証の方式には DataNature Smart に登録されているユーザー情報を使用する「DataNature 認証」と、Windows の ActiveDirectory に登録されているユーザー情報を使用する「ActiveDirectory 認証」の2種類があります。



DN クライアントツールをスタンドアロンモードで使用する場合、認証は行われません。

◆ ユーザーとグループ

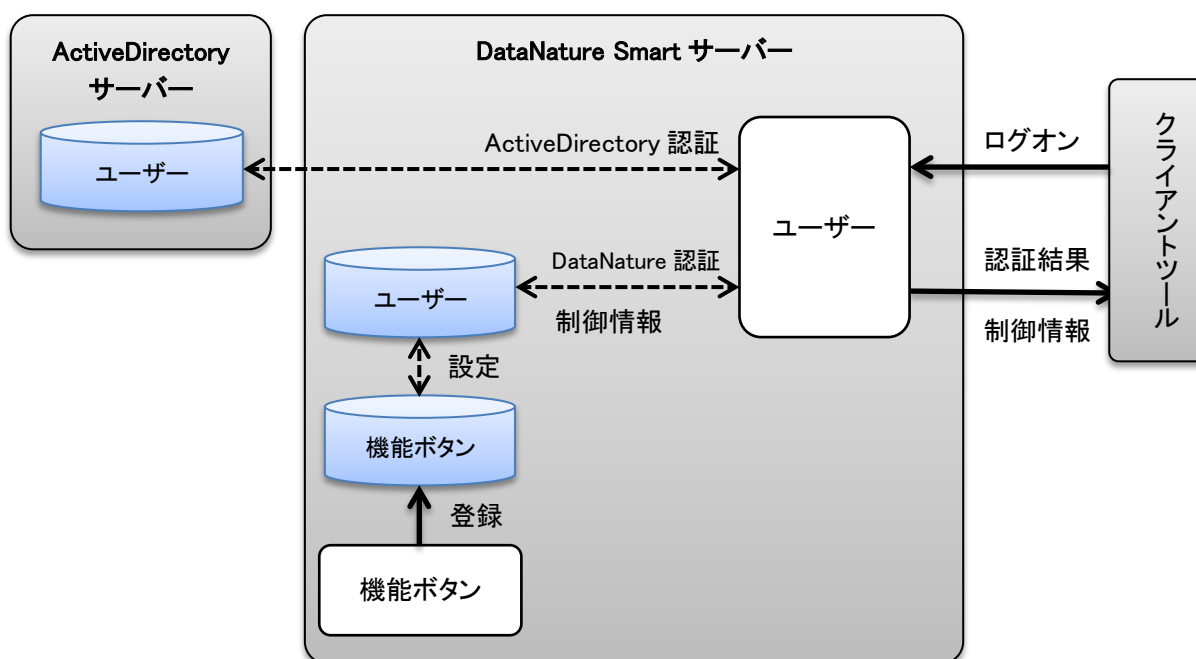
グループは同じ権限を持つユーザーの集まりです。登録したユーザーに権限を与えるためには、グループへの登録が必要となります。DN 管理ツールでは、ユーザー権限を用いて操作可能な機能を制御することにより、DN 管理ツールの登録情報を保護します。なお、DN クライアントツールには権限による機能制限がありません。

権限の種類には次の2種類があります。

権限	概要
管理者	「Administrators」グループの登録メンバーです。 DN管理ツールの全ての機能を操作できます。
一般ユーザー	「Users」グループおよび新規に作成したグループの登録メンバーです。 DN管理ツールでの操作はジョブの実行のみ行えます。ユーザーやジョブの登録などは管理者権限が必要です。

◆ ユーザーと機能ボタン

DN 管理ツールでは、ユーザー単位にDNクライアントツールで利用可能な機能を制限することができます。これにより、ユーザーに応じた統一的な運用環境を提供し、誤操作を防止します。また、データ出力機能を抑止することにより、情報流出の危険性を低減できます。制御情報の設定／登録は[機能ボタン]で行い、[ユーザー]で割り当てます。制御情報はDNクライアントツールのログオン時に取り込みます。

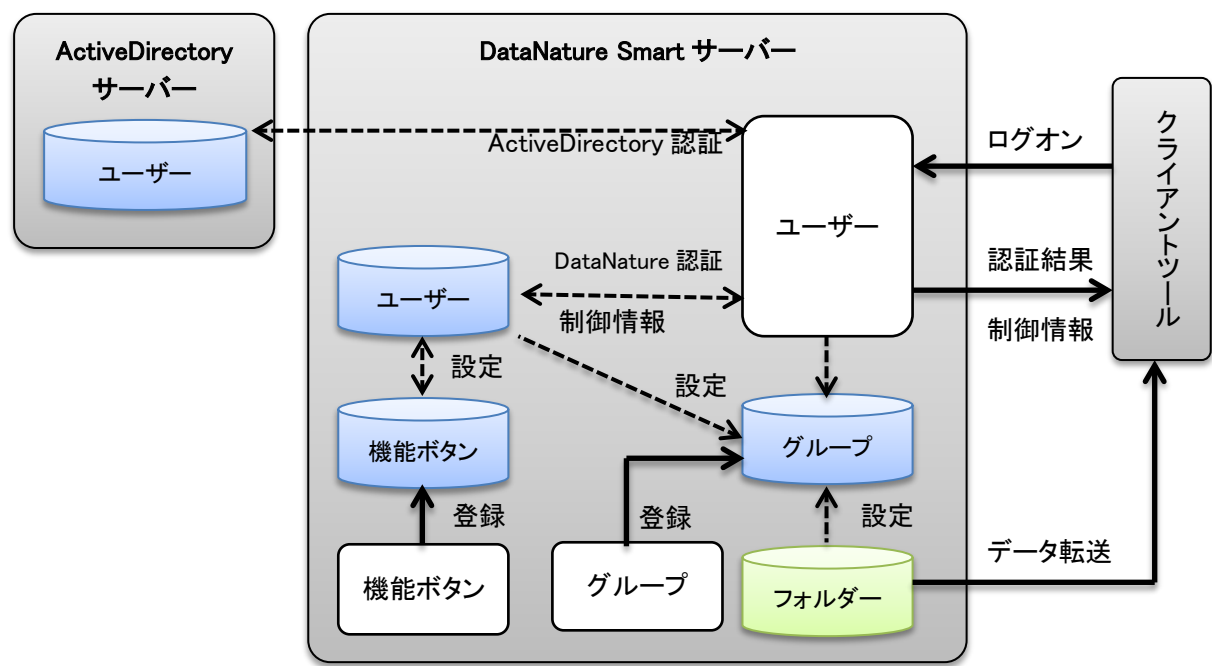


◆ DataNature Smart フォルダ－

DataNature Smart フォルダ－とは、サーバー上の任意のフォルダ－をDN管理ツールのグループに登録することで、そのグループに属するメンバーだけが DN クライアントツールから参照できるフォルダ－です。
 1つのグループに1つの DataNature Smart フォルダ－を登録できます。指定された DataNature Smart フォルダ－を参照するにはグループにメンバーを登録する必要があります。

DataNature Smart フォルダ－には次の利点があります。

No	内容
1	Windows 共有と異なり外部からフォルダ－の存在を認知できないので秘匿性が高い。
2	サーバーと DN クライアントツールとは暗号化通信を行うので機密性の高いデータの配信を実現している。
3	DataNature Smart フォルダ－は参照のみとなるので不用意な操作によるデータ破壊が無い。



なお、DN クライアントで作成したファイルを、DN クライアント上から DataNature Smart フォルダ－へアップロードさせることも可能です。
 ファイルのアップロードを許可する場合は、ユーザー登録の際、「DataNature Smart フォルダ－へのアップロードを有効にする」をチェックオンしてください。許可されたユーザーで DN クライアントを起動すると、[ファイル]メニューの [アップロード] が有効になり、ファイルのアップロードが可能となります。



ユーザー登録の手順については、S00-00_12「3-2 ユーザー登録」をご覧ください。

3-2 ユーザー登録

DataNature Smart を利用するユーザーアカウント(認証情報)の登録を行います。



[オプション]-[認証方法]にて[ActiveDirectory 認証]を選択している場合で、機能ボタン制御等を行なう際は、Windows の ActiveDirectory に登録してあるユーザーと同じ情報(ユーザー名)を設定してください。

①



DN 管理ツールの[DataNature の管理]-[セキュリティ設定]ノードをクリックし、メニューバー[セキュリティ設定]-[新しいユーザー]をクリックします。

([DataNature の管理]-[セキュリティ設定]ノード上のコンテキストメニュー[新しいユーザー])

▼[ユーザーのプロパティ]ダイアログボックスが表示されます。

②

[ユーザー名:]テキストボックスに、ユーザー名を入力します。

③

[フルネーム:]、[コメント:]テキストボックスに、フルネームや説明などを任意に入力します。

④

DN クライアントの機能ボタンの制御を行う場合は[機能ボタン制御を適用する]をチェックオンし、機能ボタン名を選択します。機能ボタンの制御についてはヘルプを参照してください。

⑤

DN クライアントから、DataNature Smart フォルダーへファイルをアップロードさせたい場合は[DataNature Smart フォルダーへのアップロードを有効にする]をチェックオンします。

⑥

DN クライアントで、パラメータファイルの作成機能を利用する場合は[パラメータファイル作成機能を有効にする]をチェックオンします。



パラメータファイルは、DN クライアントで作成・利用するファイルです。データファイルやテンプレートファイル、ログインに必要なユーザー名やパスワードといった情報を予め指定し保存できます。このファイルを DN クライアントで開くことで、指定された情報が自動的に読み込まれるようになります。ユーザー登録時、「パラメータファイルの作成機能を有効」にすると、許可されたユーザーで DN クライアントを起動した際、[ファイル]メニューの[パラメータファイル]が有効になり、設定が行えます。

- データファイル: 分析対象データを指定します (Access や Excel を指定した場合、対象となるテーブル名や Sheet 名の指定も可能です)。また、起動後に表示するフォームやデータ開始行の変更も行えます。
- テンプレートファイル: テンプレートファイルを指定します。起動後に実行するテンプレートを番号で指定することも可能です。
- ログイン情報: ユーザー名/パスワードを予め指定することで、DN クライアント起動時に表示される[サーバーへの接続]ダイアログボックスの省略が可能です。

各設定後、[保存]ボタンをクリックし、パラメータファイル (*.xdnp) を保存します。保存したファイルをダブルクリックすると、設定された情報で DN クライアントが起動されます。(DNS(1.2.0)以前のバージョンからアップデートした場合、ファイルのプロパティから起動プログラムの関連付けを行ってください。)

設定ダイアログボックスの詳細については、DN クライアントのヘルプを参照してください。

- 7 [OK]ボタンをクリックします。
▼[パスワードの設定]ダイアログボックスが表示されます。

- 8 [パスワード:]と[確認用パスワード:]を入力して[OK]をクリックします。
- 9 [ユーザーのプロパティ]ダイアログボックスに戻りますので、[OK]をクリックします。

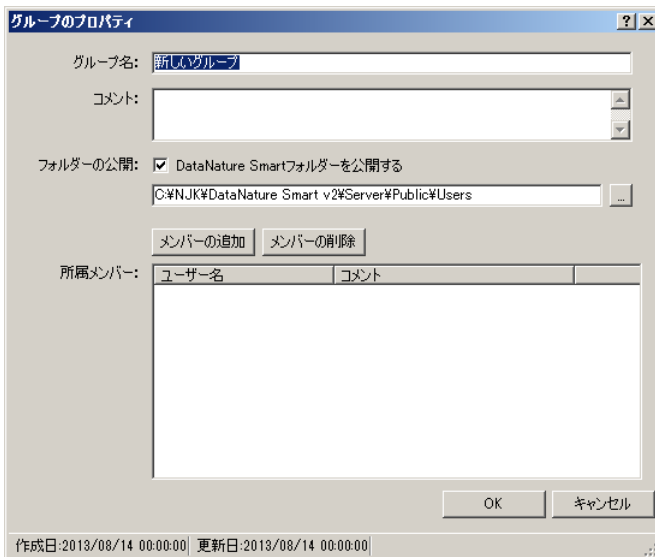


ユーザー情報を設定したテキストファイル (*.csv) を使用することで、一括で登録や修正をすることができます。また、登録されているユーザー情報をテキストファイル (*.csv) に出力することもできます。テキストファイルのフォーマットなどの詳細についてはヘルプの[ユーザー情報のインポート]ダイアログボックスをご覧ください。

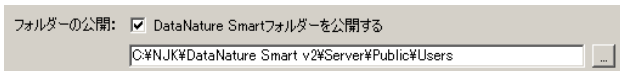
3-3 グループ登録

新たにグループを作成してユーザーを登録します。

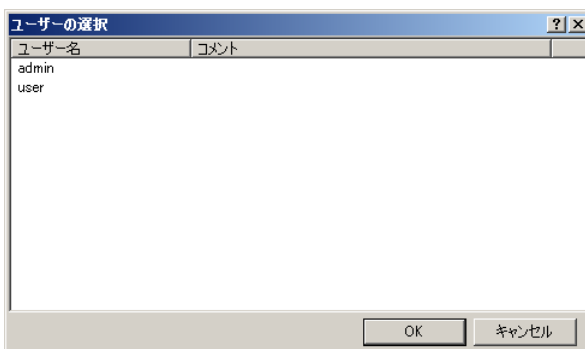
- 1  DN 管理ツールの[DataNature の管理]-[セキュリティ設定]ノードをクリックし、メニューバー[セキュリティ設定]-[新しいグループ]をクリックします。
([DataNature の管理]-[セキュリティ設定]ノード上のコンテキストメニュー[新しいグループ])
▼[グループのプロパティ]ダイアログボックスが表示されます。



- 2 [グループ名:]テキストボックスに、グループ名を入力します。
- 3 [コメント:]テキストボックスに、説明などを任意に入力します。
- 4 DataNature Smart フォルダを使用する場合は、[DataNature Smart フォルダを公開する]をチェックオンし、公開するフォルダのパスの指定を行います。



- 5 グループに所属させるメンバーを設定します。[メンバーの追加]ボタンをクリックします。
▼[ユーザーの選択]ダイアログボックスが表示されます。



- 6 ユーザー名を選択して[OK]ボタンをクリックします。
- 7 [グループのプロパティ]ダイアログボックスに戻りますので、[OK]をクリックします。



グループ情報を設定したテキストファイル(*.csv)を使用することで、一括で登録や修正をすることができます。また、登録されているユーザー情報をテキストファイル(*.csv)に出力することもできます。テキストファイルのフォーマットなどの詳細についてはヘルプの[グループ情報のインポート]ダイアログボックスをご覧ください。



グループメンバーの情報を設定したテキストファイル(*.csv)を使用することで、一括で登録や修正をすることができます。また、登録されているユーザー情報をテキストファイル(*.csv)に出力することもできます。テキストファイルのフォーマットなどの詳細についてはヘルプの[グループメンバーのインポート]ダイアログボックスをご覧ください。
未登録のユーザーや存在しないグループへの登録はできません。登録は指定のグループのメンバーを全て削除してから行いますのでご注意ください。

3-4 機能ボタン登録

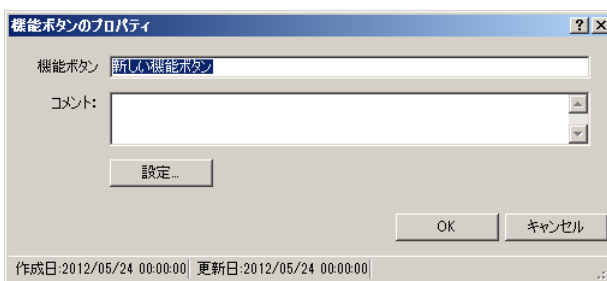
DN クライアントツールのツールバーに配置する機能を設定できます。



DN 管理ツールの[DataNature の管理]-[セキュリティ設定]ノードをクリックし、メニューバー[セキュリティ設定]-[新しい機能ボタン]をクリックします。

([DataNature の管理]-[セキュリティ設定]ノード上のコンテキストメニュー[新しい機能ボタン])

▼[機能ボタンのプロパティ]ダイアログボックスが表示されます。



2

[機能ボタン:]テキストボックスに、登録する機能群を表す名称を入力します。

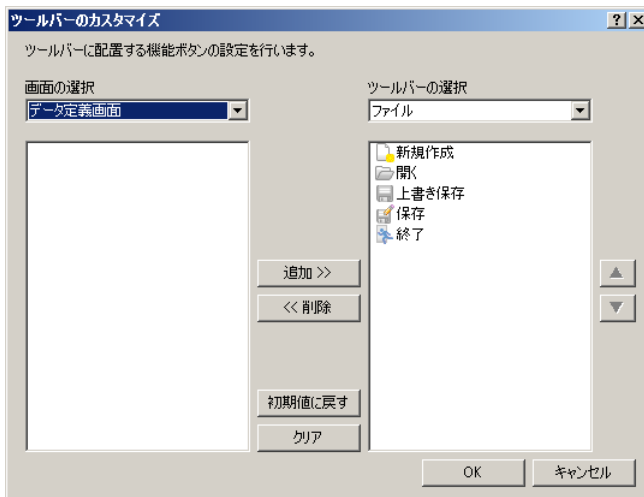
3

[コメント:]テキストボックスに、説明などを任意に入力します。

4

[設定]ボタンをクリックします。

▼[ツールバーのカスタマイズ]ダイアログボックスが表示されます。



5

「画面の選択」欄から、カスタマイズを行う画面を選択します。

6

続いて、「ツールバーの選択」欄から、カスタマイズを行うツール(グループ)を選択します。

7

画面左側には、その画面で利用できるアイコンでツールバーに配置されていないものが、右側には、ツールバーに配置されているものがそれぞれ表示されています。アイコンを選択して[追加>>][<<削除]ボタンを使ってツールバーに表示するアイコンをカスタマイズします。

8

設定後、[OK]ボタンをクリックします。

9

[機能ボタンのプロパティ]ダイアログボックスに戻りますので、[OK]ボタンをクリックします。

3-5 製品インストール時のセキュリティ情報

インストール直後の登録内容は次のとおりです。これらの情報を変えずに運用することもできますが、組織や目的に応じたユーザーやグループの登録を行って、より安全に運用することをお勧めします。

セキュリティ設定(デフォルト)

項目	名称	権限	概要
ユーザー	admin	管理者	DataNature Smart のユーザー
	user	一般	
	インストール時に登録したユーザー	管理者	
グループ	Administrators	管理者	DataNature Smart のユーザーグループ
	Users	一般	
機能ボタン	Administrators	管理者用	クライアントツールの機能ボタンの制御情報
	Users	一般用	

DataNature Smart フォルダー

項目	パス	用途
DataNature Smart フォルダー	C:\\$NJK\DataNature Smart v2\Server\Public\Administrators\	管理者用
	C:\\$NJK\DataNature Smart v2\Server\Public\Users\	一般用



[ActiveDirectory 認証]を指定した場合で、機能ボタン制御等を行なう際は、Windows の ActiveDirectory に登録してあるユーザーと同じ情報(ユーザー名)を設定する必要があります。

また、製品の初期値として登録されているユーザーやグループは削除できません。